

日本海中部地震災害状況調

(発生 昭和58年〔1983〕5月26日 12:00)

青森県 車力村

(単位:百万円)

災害区分	内 訳	金 額
家 災	死亡1(十三湖)	
住 家	全壊227棟、半壊292棟、一部損壊735棟	5,200
非住家	全壊168棟、半壊389棟、一部損壊767棟	809
宅 地	隆起、陥没、亀裂等450戸	225
構作物	ブロック塀の破損 6,200m	124
計		6,358
福 祉 施 設	保育所 牛潟保育所、富范保育所	31
診療所	全壊	50
その他	児童館、火葬場、老人センター、下車力福祉館	4
計		85
水 道 施 設	配水管44ヶ所(5,880m)	138
商 工 関 係	備品、商品の破損	470
教 育 関 係	学 校 牛潟小、富范小、車力小、車力中、清水分校	101
その他	牛潟公民館、富范公民館、農民研修センター コミュニティセンター	29
計		130
水 産 関 係	網の流出、漁港関連道655m	32

災害区分	内 訳	金 額
農 業 関 係	水 田 苗の流出327ha、陥没・隆起104ha // 埋没15ha	575
畑	野菜(旱害、冠水)29ha 国営屏風山(送水管破裂、幹線)	776
農 道	破損39ヶ所	108
機 場	揚水機2ヶ所	18
水 路	破損96ヶ所	308
その他	野菜集出荷所2棟、ため池10ヶ所 畜舎、農協施設	590
計		2,375
土 木 関 係	村 道 陥没、欠壊、亀裂等51ヶ所、橋梁2ヶ所	1,059
県 道	亀裂、陥没、38ヶ所	584
山田川	亀裂11ヶ所、橋梁2ヶ所	323
岩木川	亀裂	1,000
地すべり	830m	778
計		3,744
そ の 他	青年研修所、役場庁舎、豪雪センター、観光施設 神社仏閣等、下車力古川排水路、消防施設等	47
合 計		13,379

被害内訳(村 9,939、県 1,685、国 1,755)

日本海中部地震 の対応とその経過

車力村

日本海中部地震の対応とその経過

(車力村)

年月日	時刻	内容
昭和58.5.26	12:00	(12:00:00秒) 秋田沖に地震発生
		深浦観測所で震度5の強震、マグニチュード7と記録される
	12:23	日本海沿岸に津波警報
	12:25	消防団及び木造地区消防事務組合車力分署へ広報巡回、警戒及び災害復旧、情報収集のため出動依頼
		日本海沿岸に津波発生、十三河口での津波の状況は、河口の湖底が見えるほど引き潮が激しく、その瞬間4~5m程の高波が時速約400Kmの早さで押し寄せたと云われる。
	12:30	緊急庁内課長会議、災害対策本部設置、本部要員を除く全職員被害調査と情報収集のため災害現場へ出動、気象庁が“昭和58年日本海中部地震”と命名す。
		水道、電気、電話全面不通、断水1,644世帯(7,287人)
		家屋、道路、公共用施設、農業用施設等決壊、亀裂の被害甚大、急傾斜地(富港、車力地区)の危険箇所続出、下牛沼地区水害、主要路線交通遮断する、直ちに応急措置とる。

	14:30	県災害対策本部へ被害概況報告（その後逐次報告）
		車力村大字豊富 野宮竹則（41才）が十三湖河口で釣り中、津波のため行方不明の連絡を受ける、直ちに第五分団を現地に派遣する（十三湖での釣り客 7人行方不明）
	18:30	水道一部復旧のみで他は見通したらず
		自衛隊給水班の出動要請と青森市水道部へ給水タンク借用依頼
	20:58	津波警報解除、余震断続的に続く、
		本部要員、水道担当徹夜で対応
		県土木部、社会課 現地調査
		各地に流砂現象見られる
5.27	4:30	自衛隊給水車4台、給水タンク積載車3台 到着
	5:00	給水班作業開始（富港3、豊富1、下車カ1、牛浮1、下牛浮1、）
		村内漁船、十三河口の行方不明者搜索に出動
	7:00	青森県が車力村を災害救助法の適用指定
	9:00	村議会全員協議会開く、災害現地調査とその対策協議

被害額中間集計 (当初見込約40数億円)

家屋損壊 約450棟 (全半、一部)

床上浸水 5棟、床下浸水 25棟

断水 1,850世帯、5,500人

農道、水路決壊亀裂 延2,750m

村道決壊亀裂 延9,100m、急傾斜地 約1,000m

水道、送配水管破裂 延11,100m

水田埋没、隆起、涸没等 約120ha、(稻流失埋没相当数)

その他公共施設軒並み損傷

富港小、牛浮小、休校中、(28日まで) その後当分の間 午前授業

村内各保育所 休所 (5月末日まで) その後午前保育並に弁当持参続く

志賀副知事 来村、現地視察

日本赤十字社から救援物資届く、

共産党調査団来村

11:30

5. 28		水田の浮苗、埋没苗の補植用苗確保に農協、農家奔走す。
	16:00	内海英男建設大臣、北村知事、竹内、木村代議一行来村 下牛沼、富港地区及び岩木川堤防視察 県が災害救助法、同法外援助が適用された所村(車力村、中里所、小泊村)に対し県税減免の特別措置を決める。
5. 29	11:11	震度3程度の弱震が続く 建設省査定官、予備調査に来村 住宅金融公庫、住宅資金の融資関係説明のため来庁、 被災地域、ようやく復興のきざし 自衛隊給水班 撤収する。タンク積載車のみで対応 補植用苗 確保の見通しつく。
5. 30		早朝から余震続く、震度3 大田光、富港莊野地区水田水枯れ、稻枯死状態
	12:00	県議会農林常任委員会調査団来村
	14:15	社会党調査団来庁

5. 31

9:20

野宮竹則、十三湖河口で水死体で発見する。

役場総務課内に災害係を設ける。(各課より配置^増え、5名で構成)

12:00

参議院災害対策特別委員会、山内副知事ら同行で現地視察。

県から技術職員の派遣を受ける(農林土木、建築住宅外関係職員)

地震災害の特異性として被害状況拡大する。

中間被害額、92億9千800万円(県全体316億6千300万円)

家屋関係 336,500万円

福祉 " 17,400 "

水道 " 22,000 "

農業 " 182,500 "

土木 " 290,000 "

水産 " 2,300 "

教育 " 26,300 "

商工 " 47,000 "

その他 5,800 "

6. 1		西北五地域広域市町村圏協議会(会長森田五所川原市長)一行が、北村 知事、県議会議長へ“激甚災害”の指定を陳情 ニッ森県教育長 教育施設の被災状況視察 12:00 県議会水産商工労働常任委員会 来村 災害援護資金借入申込 受付開始 続く余震で 災害復旧進まず
6. 2		文部省係官 来村 成田村長、村議会が県知事、県議会へ陳情 三上北海道議会議長 来庁 17:00 田沢吉郎元農林水産大臣 来庁

6. 3	10:00	村議会定例会開会（会期10日まで） 災害復旧費等追加補正
	14:40	自民党非常災害対策委員会一行 来村
6. 5		水道（飲料水）復旧状況 好転 富港荘野（山の上）地区 集落移転等で説明会
6. 6		資金貸付相談所開設（役場内） 県議会土木公営企業常任委員会 来村 山本幸雄自治大臣 来県、 成田村長ら青森市で陳情
6. 7		総務課職員 中央省庁へ陳情準備のため上京

6. 8	13:00	衆議院災害対策特別委員会調査団一行来村
	18:00	議会議員、定例会々期を繰上げ村長共、中央省庁へ陳情
		のため出発。
		県内被害額 268億円にのぼる
		自治省、普通交付税の一部繰上げ交付決定
6. 9	9:00	各省庁へ被害状況の説明と激甚災害の早期指定を陳情、
		竹内繁一、木村亨男代議士、石田清治、秋田桓則県議同行
		陳情先、通商産業省、中小企業庁、文部省、国税庁
		農林水産省、厚生省、建設省、自治省
		国土庁、大蔵省、林野庁、
		二階堂自民党幹事長、後藤田官房長官 外
		途中、北村県知事、塚本恭一県町村会長らと合流する、
		村上収入役、工藤県農林部次長と東北農政局へ陳情する、
6. 10		応急仮設住宅建設費(20.921千円) 専決処分

6. 14

応急仮設住宅着工 (@ $23.1\text{m}^2 \times 20$ 棟)

6. 15

救援物資の配付始る

6. 21

15:26

震度 4, M. 6.9 の余震, (深浦観測所)

牛浮、下牛浮地区の一部水道管破損、徹夜で復旧作業

自衛隊(車力分屯基地)給水車出動。断水 150 世帯

被害拡大 総被害額 133 億 7 千 900 万円

家屋関係

635,800 万円

福祉 "

8,500 "

水道 "

13,800 "

農業 "

237,500 "

車力村関係

土木 "

374,400 "

993,900 万円

水産 "

3,200 "

県 "

教育 "

13,000 "

168,500 "

商工 "

47,200 "

国 "

その他

4,700 "

175,500 "

6. 23		農林土木関係、 国の災害査定始る
6. 24		第二次応急仮設住宅建設及び各小学校仮設便所等復旧工事費 (28,765千円) 専決処分
7. 1		日本海中部地震による災害を“激甚災害”の指定を 閣議決定する、 (施行は昭和58年7月5日より) <車力村の対象区分> 農地、農業用施設、林道、中小企業関係 農林水産業の共同利用施設関係
7. 4		青森県全体の被害総額 514億3千350余万円にのぼる、 第二次応急仮設住宅建築始る (7棟、24世帯分)
7. 6		農協関係の共同利用施設 災害査定
7. 7	14:00	議会全員協議会、 臨時村議会開く、 災害援護資金(250,000千円)その他災害復旧費等追加補正 地震発生以来偏東風続きで低温による農作物生育のおくれ著しい

7. 11		土木関係査定 (10日まで)
7. 19		文教施設関係査定
7. 20		第一次災害援護資金貸付 203,800千円
7. 25	14:00	臨時村議会 (災害復旧費等追加補正) 富港保育所建設関係、文教施設災害復旧費等 一般会計予算総額 2,734,926千円となる
7. 27		18:30頃より、雷鳴伴う豪雨あり。 雨量、18:30～21:45 50mm 牛浮、下牛浮の一部を除き落雷による停電 牛浮、下牛浮、車力、豊富の各一部水害発生 本部要員、消防団出動、床上浸水6戸、床下浸水32戸
7. 30		京都大学教授(理学博士) 一戸時雄先生 (五所川原市出身) "地震と津波について" 講演する(車力村老人センター) 約100名参加

8. 1

第二回目の災害援護資金貸付 58,000千円 (累計 261,800千円)

総務課 災害係 が 建設課 に配置換え

査定後の災害復旧事業に対応

8. 2

農地関係 査定 (8月まで)

8. 3

水道関係 査定 (5月まで)